

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

住吉高校の伝統と実績の上に立ち、国際科学高校として、21世紀のグローバル時代をリードし、世界に貢献する人を育てる学校づくりを進める。その実現へ向けて、生徒の個を大切に、府のパイロットスクールとして新しいことに積極的にチャレンジする学校、生徒や保護者、府民のニーズや期待に応える学校となることをめざす。

- ◎ 基礎から発展まで「生徒が思考する授業」、「力をつく授業」を展開し、3年間を見通した進路指導により生徒の希望進路を実現する。
- ◎ 「チーム住吉」で教職員が一丸となって、国際交流や行事、生活指導を行い、「自由・自主・自律」を体現する生徒を育てる。
- ◎ 世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚を有する生徒を育てる。

## 2 中期的目標

グローバル時代をリードし世界に貢献する人を育てるため、生徒につけたい力を定めその実現へ向けた取組みを行い、下記の中期的目標を達成する。

## 【「5つのつけたい力 (Five Sumiyoshi Qualities)」】

- 1 将来を見通せる深い洞察力と世界を見据えた視野の広さ
- 2 異文化を受け入れることのできる包容力と鋭い人権感覚
- 3 理念のみならず、行動に移せる実行力とバランス感覚
- 4 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
- 5 科学に対する真摯さと謙虚さ

## 1. 学力向上と進路実現

国際科学高校改編13年目を迎え、国のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）（再指定2018～2022）や大阪府の「『骨太の英語力』養成事業」（H29事業終了）等の意義を踏まえ、教職員の資質向上と組織的な教育活動により、生徒の学力向上及び希望進路の実現を図る。

## (1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成

- ア すべての教科で「つけたい力」「重点目標」「具体的目標」「具体的方策」を学校全体で共有し評価する。
- イ 新学習指導要領や高大接続を見据えた「カリキュラム」の策定（2020完成）
- ウ 授業の形態を引き続きアクティブ・ラーニング（探究型、双方向型、課題解決型）とし、「住吉ALモデル」を構築する。
  - ※ すべての教科で「住吉ALモデル」を策定（H31）
- エ 72期生(29年度入学生)より3年間を見通した進路指導を着実に実行する。(H29～)
  - ※ 生徒の希望する進路の実現率85%以上(H31～)、国公立大学合格者100名以上(H31～)

## 2. 国際科学高校としての質的な深化

## (1) 国際文化科と総合科学科のさらなる融合

- ア 文理融合カリキュラムの実施 ※スーパーサイエンスクラスの充実（H30～）
- イ ルーブリック評価による生徒の思考力、表現力等の向上

## (2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成

- ア 授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上 ※各英語コミュニケーション能力測定テストの目標値の達成（H29～）

## (3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実

- ア SSHの取組みの柱 ①課題研究の質の向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 を確立する。
- イ ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。

※ 学校教育自己診断（生徒用）の「環境、国際理解、福祉ボランティア等について学ぶ機会がある」の項目を85%以上

## (4) 国際交流、海外研修、自治会等 行事の見直しによる質の充実

- ※ 各行事や取組の生徒満足度90%以上（H31～）

## 3. 世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成

## (1) 人権を尊重する意識の向上

- ※ 総合的な学習の時間や人権HRのさらなる充実、きめ細かな相談支援体制の確立
- ※ 学校教育自己診断「人権について学ぶ機会」90%以上

## (2) マナー・規範意識等の育成

- ※ 挨拶・清掃・遅刻指導の徹底、遅刻数は年間2000を下回ること（H31～）

## (3) 生徒の自主的な活動の充実

- ※ 自治会活動、部活動のさらなる充実、部活動加入率85%（H31～）

## 4. 「チーム住吉」の確立による新しい課題への挑戦（支え合い高め合う組織の実現）

## (1) SIC（住吉改革委員会）に ① 学習指導PT ② 新教育課程PT（H30新カリキュラム検討委員会を新設）③ ICT推進PTを設置（H29～）

※ ① 「住吉ALモデル」と評価法の策定 ② 「カリキュラム」の策定 ③ 授業でのICT活用及び校務のICT化の促進

## (2) SSH推進体制に、卒業生による「住高支援ネットワーク」の充実を図る ※全校体制化のさらなる推進（H30～）

## (3) 地域、PTA、同窓会等と協働する学校づくりの推進及び広報活動体制の強化 ※学校ブログ設置（H29～）、広報活動の充実（H29～）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>教育活動</b> 「学校生活が充実している（生徒 93.8%、保護者 92.8%）」、「住吉高校に入学してよかった（生徒 92.3%、保護者 96.1%）」、「他の学校にない特色がある（生徒 96.0%、保護者 94.9%）」、「実験合宿や英語合宿、スタディツアーはためになっている（生徒 94.7%、保護者 97.1%）」と高い評価を得た。 昨年の授業についての生徒肯定的評価が 76%であったが本年度は、「授業はわかりやすい（生徒 83.9%）」と肯定的評価が増加した。また、評価についても昨年の生徒肯定的評価 87%が、「学習の評価は納得できる（生徒 90.9%、保護者 91.9%）」と向上した。 本年度、校内相互授業見学、公開授業、また阪南中学校との相互授業見学・研究協議など授業力の向上に努めたことが功を奏したと考えられるが、さらなる向上がめざしたい。</p> <p><b>学校生活</b> 「困っていることには真剣に対応してくれる」は 82%から 89.8%、「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」が 65%から 82.5%と大きく伸びた。 「学校生活の指導は適切である（生徒 86.3%、保護者 89.7%）」であり、昨年の生徒 69%、保護者の生徒指導方針に対する共感 81%から変化した。今後も適切な指導に努めたい。 人権、命について学ぶ機会について、生徒 93.4%、92.6%、保護者 90.9%、87.0%。ともに 85%を超える肯定的意見があった。</p> <p><b>その他</b> 「学校の施設・設備は、学習環境面で満足できる（生徒 68.4%、保護者 67.0%）」と低い。老朽化等あるが設備の維持管理に努めたい。なお、創立 100 周年事業のうち、先行事業として各教室の ICT 化を進める予定である。 本年度は地震、台風、大雨などの自然災害が発生し、交通機関の乱れ等により休校日があった。対応の周知について保護者の肯定的評価が 67.6%と低い。次年度改善をめざす。</p>	<p>第 1 回（6/19） 学校経営計画の承認を得る。 進路指導 目標がはっきりしているので生徒のモチベーションは高いが、進路意識は低いのか。 活動の経験から進路意識を育てることは大切だが、進路実現には学力は必要。 入学時に理系文系に分かれている影響はないか。 住吉高校として国公立大学への進学の見込みは成功している。3 年生になると予備校等の指導を受ける生徒も増え、高校だけの進学指導ではなくなる時期ではある。 学校での活動を入試に利用する方向が一部にみられるが、どうか。 古い情報が WEB に残っているので、魅力あるページにしていくべきでは。 中学校では勤務時間外は電話応答装置を使用しているが、これなども勤務の軽減の方法の一つである。</p> <p>第 2 回（10/30） 総合科学科の生徒で英語の得意な生徒が増えるとうい。 懲戒と遅刻の関連はあるのか。 自転車の安全指導はどうしているのか。苦情はあるか。 総合科学科の取組みは素晴らしい。後援会としても応援したい。 遅刻は保護者の問題でもあるのでは。 E ポートフォリオへ移行する学校が多い。展望は。 生徒へのスマートフォンをどのように指導しているか。 外部人材の活用はどのように考えているか。ボランティアコーディネーター（独）があるそうだ。一つの方法だと思う。OB が調整役を行うのも一つの方法である。</p> <p>第 3 回（2/22） 学校教育自己診断より相談体制の項目が向上していることに感心している。 阪南中学校との相互授業見学はどんなことをしているのか。 この交流は続けていく必要がある。小学校の教材は刺激になると思う。 国際共同研究はどのような状態か。 交際文化科と総合科学科の融合をしてみてもいい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上と進路実現	<p>(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成 ア. すべての教科で「つきたい力」「重点目標」「具体的目標」「具体的方策」を学校全体で共有し評価する。 イ. 新学習指導要領や高大接続を見据えた「カリキュラム」の策定 ウ. 授業の形態を引き続きアクティブ・ラーニング（探究型、双方向型、課題解決型）とし、「住吉 AL モデル」を構築する。 エ. 72 期生(29 年度入学生)より3年間を見通した進路指導を着実に実行する。</p>	<p>(1) ア・「学習指導PT」を中心とし、授業改善を行う。 ・PTによる経験の少ない教員の公開授業を推奨する。PTが中心となって経験の少ない教員への組織的支援体制を強化する。 併せて、業務の効率化を図る。 ・PTA主催の教育産業による土曜講習を実施する。 イ・「新カリキュラム検討委員会」を新設し、新教育課程の教科調整、原案作成等を行なう。 ウ・「学習指導PT」が主導し、「住吉 AL モデル」を構築する。 ・「ICT 推進 PT」が中心となり、「生徒が思考する授業」、「力のつく授業」を目標に ICT 機器等の活用を推進する。併せて、業務の効率化を図る。 エ・進路指導部が主導し、学年団と連携の上、3 年間を見通した進路指導を実施する。 ・学年団ごとの自主的な講習でなく、進路指導部が学校全体で調整、策定した進学講習を系統的に実施する。 ・PTA 主催の模擬試験終了後、進路指導部と学年団が連携し、分析会を実施。生徒の情報を共有する。</p>	<p>(1) ア・公開授業、研究協議を年間6回以上実施 (H29:6 回) イ・新指導要領「カリキュラム」の策定 ウ・「住吉 AL モデル」を作成し、全校で共有する。 ・モデル事例を5事例以上作成する。 ・教員の ICT 機器等の活用率 自己診断 95% (H29 92%) ・授業アンケートの「生徒意識2 知識や技能が身についた」の項目 3.5 以上 (H29 1回目 2.27 2回目 3.33) エ・1 年次1 学期より系統的な進路ホームルームを実施。(年間6回以上) ・系統的な進学講習の開催 (放課後、長期休業期間) ・模擬試験の分析会を定期的に開催。(年間3回) ・国公立大学合格者 70 名以上。(H29 52 名) ・センター試験受験者を 200 名以上 (H29 206 名)</p>	<p>・6 回 中学校との相互授業見学・研究協議も実施 (○) ・計画通り原案作成進行 (○) ・研究継続 (△) ・自己診断「ICT 機器が良く使用されている」91.3% 全教室に電子黒板導入計画進行 (△) ・授業アンケート 1 回目 3.19 2 回目 3.26 (△) ・5 回 進路だより等により補完 1 年 ポートフォリオ開始 (○) ・夏期、土曜、早朝、放課後講習等多数 自習室の利用者 増 (◎) ・模擬試験分析会5回 (◎) ・国公立大学合格者 現役 57 名 既卒 25 名 (△) ・センター試験出願 222 名 (◎)</p>

<p>2 国際科学高校としての質的な深化</p>	<p>(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる融合 ア. 文理融合カリキュラムの実施 イ. ルーブリック評価による生徒の思考力、表現力等の向上</p> <p>(2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成 ア. 授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上</p> <p>(3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実 ア SSH の取組の柱を確立 イ. ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。</p> <p>(4) 国際交流、海外研修、自治会等 行事の見直しによる質の充実</p>	<p>(1) ア・スーパーサイエンスクラスを充実させる。 イ・「SSH 推進会議」が SSH 課題研究、台湾の姉妹校との国際共同研究等に向けたルーブリックを策定する。 ・国際文化科、総合科学科の合同行事を深化させる。併せて、業務の効率化を図る。</p> <p>(2) ア・暗誦、ディベート等の指導やSE(スーパーイングリッシュ)、SK(スーパーコリアン)等の授業、英語合宿、スピーチコンテスト等の行事を引き続き系統的に実施する。 イ・SSC(スーパーサイエンスクラス)において科学英語の学習を行う。 ウ・スピーキングテストの実施</p> <p>(3) ア・SSH の取組の柱①課題研究の質の向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 を確立する。 イ・ESD を柱とした総合的な学習の時間、カンボジアへのアジアフィールドスタディ、ユネスコスクール行事等を中心に平和学習、人権学習を充実させる。</p> <p>(4)「行事の精選」を課題として、精選及び効果的な実施を確立する。併せて、業務の効率化を図る。</p>	<p>(1) ア 学科、学年を越えたスーパーサイエンスクラスの充実 ・学校教育自己診断における「評価基準について事前に示されている(H29 81%)」、「評価について納得できる(H29 87%)」を共に 90%以上とする。 ・SSH 国際共同研究を両科で推進する。(H29 合同開催は、スタディーツアー、各種研修旅行等)</p> <p>(2) ア・TOEFL 80 点以上 受講生の 10%、60 点以上 受講生の 15% (H29 80 点以上 3 名、60 点以上 3 名) ・TOEIC の平均スコア 500 点以上 (H29 406.3 点) ・GTEC の平均スコア 520 以上 (H29:平均点1年 492.3 点、2年 524.8 点。700 点以上 1 年 2 人、2 年 5 人。最高点 785 点)</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断の「環境、国際理解、福祉ボランティア等について学ぶ機会がある」の項目を 85%以上(H29 85%)</p> <p>(4) ・行事の精選 ・生徒の満足度 85%以上 (H29 84%)</p>	<p>・H30 診断項目更新 自己診断「評価について納得できる」90.9% (◎)</p> <p>・SSH 講演 合同実施 SSH 中間発表会 国際文化科参加 (○)</p> <p>・TOEFL 80 点以上 0%、60 点以上 14.3% (△) ・TOEIC 平均スコア 392.5 (△) ・GTEC 平均スコア 498 点 平均点1年 489.7 点、2年 506.6 点 700 点以上1年0人、2年 5 人 最高点 786 点 (△) 体調不良(インフルエンザ等)が影響したと考える。</p> <p>・H30 診断項目更新 自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」92.6% 自己診断「外部講師の話はためになった(科学関連、国際理解)」90.0% NGO、NPO 等による講演 4 回 (◎)</p> <p>・自己診断「体育祭、学園祭、遠足には楽しく参加している」93.1% (◎)</p>
<p>3 豊かな国際感覚、人権感覚の育成</p>	<p>(1) 人権を尊重する意識の向上</p> <p>(2) マナー・規範意識等の育成</p> <p>(3) 生徒の自主的な活動の充実</p>	<p>(1)・人権教育推進委員会において、人権ホームルーム及び教員研修の一層の充実を図る。本名使用の指導、人権講演会を実施する。 ・支援カード I、II の活用及び支援委員会によるきめこまかな生徒の支援体制の全校化を引き続き行う。 ・帰国渡日生を支援する GL(グローバル ライフ)委員会の活動を充実させる。</p> <p>(2) ・生活指導部中心に学年団との連携により、遅刻指導、自転車等のマナー指導、挨拶指導等の徹底を図る。 ・保健部中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除時の徹底を図る。</p> <p>(3)・自治会中心に生活指導部、学年団等と連携し、生徒が主体的に行う体育大会、学園祭等の行事やコンテスト等への参加を充実させる。 併せて、業務の効率化を図る。</p>	<p>(1) 人権ホームルームの質のさらなる充実を図る。 ・学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある。」87% (H29 87%) ・教員研修を年間3回開催 (目的別実施含む。) ・学校教育自己診断の「担任以外に相談できる先生」70%以上(H29 65%)</p> <p>(2)・遅刻指導の徹底、年間 2000 件台 (H29 2827 件) ・清掃美化について HR 教室等、学習環境を美しく保つことをめざし、定期的にチェックする体制を整える。年間3回チェックを行う。</p> <p>(3)・学校教育自己診断の「自治会活動は活発である。」を 90%(H29 76%)、「部活動に積極的に取り組んでいる」を 85% (H29 80%) ・新入生部活動加入率を 85%</p>	<p>・自己診断「人権について学ぶ機会がある。」93.4% (◎) ・教員人権研修2回実施済み 新担任向け研修実施済み (○) ・自己診断「担任以外に相談できる先生」82.5% (◎)</p> <p>・遅刻指導 2517 件 前年比 10.0%減 (◎) ・大清掃 8 回実施済み クリーンキャンペーン 9 回実施 (◎)</p> <p>・H30 診断項目更新 自己診断「部活動に積極的に取り組んでいる」90.1% (◎) ・新入生部活動加入率 90.4% (◎)</p>

## 府立住吉高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 チーム住吉の確立による新しい課題への挑戦</p>	<p>(1)SIC(住吉改革委員会)に ① 学習指導 PT ② 新教育課程 PT ③ ICT 推進 PT を設置</p> <p>(2) SSH 推進体制に、卒業生による「住高支援ネットワーク」の充実を図る</p> <p>(3)地域、PTA、同窓会等と協働する学校づくりの推進及び広報活動体制の強化</p>	<p>(1) SIC(住吉改革委員会)① 学習指導 PT ② 新教育課程 PT ③ ICT 推進 PT 活動の推進 「新カリキュラム検討委員会」を新設し、新教育課程の教科調整、原案作成等を行なう。</p> <p>(2)「推進会議」により、事業の企画立案や進捗管理等を行う。 ②「住高支援ネットワーク」の充実。課題研究や講演会の講師等の支援を受ける。 併せて、業務の効率化を図る。</p> <p>(3)・地元の2小学校、1中学校と「SSH実験教室」の内容を充実させるとともに、特に中高の教員交流を推進する。</p> <p>・総務部中心に学年団と連携し、効果的な広報活動を展開する。 学校説明会・体験入学会やホームページ等を活用した広報活動の充実を図る。 併せて、業務の効率化を図る。</p>	<p>(1)PTによる研究、報告。 ・PT活動 15回</p> <p>(2) ・推進会議 15回 ・「住高支援ネットワーク」を課題研究に活用する。 メール、SNS等により、質疑応答、指導・助言等の支援</p> <p>(3) ・小学生対象の教室を年間3回、中学生対象の教室を年間4回以上実施する。(H29 上記同数) ・地元中学校との教員交流を年間2回以上実施し、本校のSSHで作成した教員マニュアルや教材等の普及を行う。 ・学校行事への PTA の参加者増をめざす。 ・学校説明会・体験入学会を年間4回開催する。(H29 4回) ・中学校および PTA へ連絡を取り、本校プレゼン等の要望に応える。</p>	<p>・各 PT 15回 (○)</p> <p>・推進会議 15回 (○) ・SSH 中間発表会において指導助言をいただいた (○)</p> <p>・SSH 実験教室 小学校1回 3実験 中学校3回 (休日開催を縮減) (○) ・地元中学校との教員交流 4回 (◎)</p> <p>・PTA 参加者増 (○) ・休日開催を縮減のため3回実施としたが、参加者数は増加 9月説明会 750名超参加 (予定 400名) 10月体験入学 400名超参加 保護者向け説明会 200名超参加 (予定 100名) 12月説明会 500名超参加 (◎)</p> <p>・中学校 144校 案内送付 12月「卒業生からの応援メッセージ」送付 ・各種説明会 参加 (○)</p>
---	--	--	---	---